

東北大学災害科学国際研究所と八戸工業大学との学術・研究交流協定調印・ 5周年記念講演会を行いました (2023/11/27)

テーマ：国内連携、八戸工業大学
会場：災害科学国際研究所 所長室・1F セミナー室

令和5年11月27日(月)、災害科学国際研究所において、災害科学国際研究所と八戸工業大学との学術・研究交流協定5周年を記念した式典が行われ、当研究所から栗山進一所長、寺田賢二郎教授、森口周二准教授(以上2名、計算安全工学研究分野)、野島和也特任准教授(日本工営レジリエントシティー技術実装共同研究部門)、野村怜佳助教(計算安全工学研究分野)が出席しました。

八戸工業大学の部門再編に掛かる協定内容の変更から、5周年を機に当研究所栗山所長と八戸工業大学坂本禎智学長が協定書への署名を改めて行い、学術・人事交流をさらに活発化させることで、昨今注目が高まっている日本海溝・千島海溝を震源とする津波リスクへのレジリエンス向上を目指していこうという意欲を一致させました。八戸工業大学からは、金子賢治学長補佐、高瀬慎介教授、浅川拓克准教授、外里健太助教が同行しました。

協定締結5周年を記念した署名後の講演会では、森口准教授による研究業績・人事交流実績についての報告ののち、野村助教、浅川准教授(八戸工業大学工学部)から、それぞれ「八戸工業大学・災害科学国際研究所連携による津波リスク評価技術開発の歩み」と「はちのへの医工連携～現場での高度な ECPR を可能とした『移動型緊急手術室ドクターカー-V3』の開発～」と題した講演が行われました。



協定書署名後の記念写真
(左：栗山進一所長、右：坂本禎智学長)



締結式参加者の集合写真



講演の様子(野村怜佳助教)



「移動型緊急手術室ドクターカー-V3」の
災害時利用について展望を述べる
浅川拓克准教授

文責：野村怜佳(計算安全工学研究分野)